

▼ 年頭所感 ▼

新年、あけましておめでとうございます。会員の皆様は新年のご挨拶申し上げます。

昨年は吉野町で開催されたインターハイ、橿原公苑での全国高専大会の運営、和歌山の国体のお手伝い等、多忙な連盟行事への積極的な協力ありがとうございました。

全国大会で活躍された方々、連合審査、中央審査で昇段された方々、おめでとうございます。今後も尚いっそうの活躍の程、期待しております。

今年度は、役員改選の年で、去る1月10日、臨時評議員会において、名誉会長、会長、副会長の留任が決定しました。昨年まで同様、連盟会員、事務局スタッフの支援のもと、逐次、連盟の運営に努めて行く所存です。1期目の不足課題を補足すべく与えられた留任だと心しております。今後も皆様の協力が連盟の運営向上の唯一の起爆剤となることを確信する次第です。

年頭にあたり連盟の総意でもあり皆様の目標にしていただきたいことがあります。

①競技力向上、特に全国レベルの大会での団体戦に結果を出せるチーム作りを学校、一般、一丸となって取り組んでいく姿勢。

②年々、連合審査、中央審査に挑戦される方増えてきています。これからも、目標を持って挑戦して、喜びの結果報告をお待ちしています。特に、20代、30代の錬士、30代、40代の教士が誕生して若いリーダーが今後の奈良県弓道連盟の発展に寄与してくれることを望みます。

最後に、平成28年度は奈良県が近畿連合会の当番です。皆様のご協力、お力添えよろしくお願い致します。

奈良県弓道連盟 会長 西中 正

■第260回地連審査会

平成27年12月13日橿原公苑弓道場にて第260回審査会を開催しました。

結果は、

級位 申請49名 欠席1名
合格者 1級43名 2級3名 原級2名、

初段 申請48名 合格者 44名、

弐段 申請11名 合格者 10名、

参段 申請12名 合格者 5名、

四段 申請11名 合格者は小西徳子さん（橿原）

でした。（審査部：明瀬 綾子）

■第20回 布目108中射会

年末とは思えないほど暖かい日差しの中、参加者21名、今年一年の集大成として静かに射会が始まりました。最年少の中学生の射手や、初参加の人、久しぶりに弓を引く人など和気あいあいとした雰囲気でお互いの的中を見守りつつ、時に溜息をつき時に歓声を（静かに）あげ、なごやかな射会となりました。

射会のあとは、お待ちかねの手打ち年越しそばとおでん、手作りケーキ等々。道場内も皆で大掃除して今年一年を締めくくったのでした。

成績は

108中射賞 吉本清巳、
アシスト賞 片山万貴、
最的中賞 中井達男、
他飛び賞数名。

布目の108中射賞をいただくと「翌年はいいことがある」。その通り充実の一年でした。今年は清巳さんに女神が微笑んでいます。さて、来年は？（奈良支部：松澤 和実）



■大和神社御弓始式

1月4日、新春の穏やかな天候の下、大和神社で天下太平・五穀豊穡を祈る「御弓始祭」が行われ、県連盟会員25名と天理南中学校弓道部員10名がご奉仕しました。

神事に続いて「墓目の儀」「宮司様・氏子様による奉射」「天理南中10名の奉射」「百々手式」と無事執行することができました。

連盟行事として行っている伝統ある行事ですので、今後とも連盟会員の皆様のご協力をお願いします。

(奈良支部：深田 紀美子)



■上北山村 弓矢祭

毎年1月8日、上北山村河合にて、この地に住みついた平家の武将が再興を願い練武を行ったことに因み、350年前より口伝で受け継がれる仕来りに則り「弓引き行事」が行われています。動きはとても特徴的です。行事は、村の成人男性と男子中学生が結界の張られた射場から距離40m高さ6mの場所にある大きさ1.8mの霞的を狙います。的中すれば1年無病息災で過ごせるということもあり、的中すれば大きな拍手と歓声がおこりました。

(右上へ)

その行事終了後、結界を解き初の試みである村内・外(一般招待者他)の人にも弓を引いてもらうというイベントに、上北山村弓矢祭保存会より演武の依頼があり檀原市弓道協会員3名(山本元祥、長濱有美、東中千佳)も参加してきました。このイベントに参加協力することになったのは、檀原市弓道スクールに上北山村保存会の方が「【弓道】というのを知りたい」という思いで来られたことがきっかけでした。

ピリッとした雰囲気もありつつ、でも和やかな雰囲気の中でイベントは行われました。何時も引いている道場・遠の場とは全く違う感覚だったので、狙いをつけるのがとても難しかったです。そして、試合とはまた違う緊張感に襲われました。当日は身に余るほどのおもてなしをして頂いたこと感謝しております。そして、このイベントに参加することで少しでも村おこしのお手伝いが出来たのなら幸いです。

(檀原支部：東中 千佳)



■第3回中堅層特別講習会

平成28年1月11日、檀原公苑弓道場で第3回中堅層特別講習会が開催されました。(受講生24名)

主任講師は西浦範光指導部長、特別講師として吉本清信先生・須田三郎先生・西中正会長の四名の先生方が指導に当たっていただきました。受講生は四段・五段受有者で50才以下の若手であり元気いっぱいの人達です。

講習会の内容は、矢渡し、一手行射、射礼研修、昼食後は西中会長の講話「連盟会員に望むこと」があり、3班に別れての射技研修、最後に仕上行射がありました。

仕上行射では、今まで3回に亘った講習会の総仕上げということでみんな一生懸命に行射をしていました。そしてそれぞれ受講前よりも進歩しているように感じました。連盟の中堅層の皆さんにかける大きな思いを受け止めて頑張ってくださいありがとうございます。今後この中から多くの錬士が誕生することを念願しています。

(指導部：岡本 篤子)

■寒稽古

奈良市総合財団主催の「奈良市武道寒稽古会・参禅会」が1月15日(金)から17日(日)の3日間行われました。(午前6時から7時)

早い人は、まだ暗い5時半前から来て準備をしてきていました。

この時期一段と寒さが厳しくなり、指先も凍りそうでしたが、澄んだ空気の中で弓を引くのは心が洗われる思いでした。最終日には、用意していただいた「ぜんざい」を食べてほっこりして終わりました。

参加者は、1日目9名、2日目19名、3日目18名で例年より少し少なかったのが残念でした。

(奈良支部：深田 紀美子)



祝優勝

三十三間堂全国的大大会

成人男子の部

天理大学 中岡 稜

称号者の部

檀原支部 山本 元祥

■特別連載■

先月号に続き、大和郡山市弓道協会「協会だより」に掲載された県連顧問の須田先生の文章を紹介します。

【心に残る弓道家・・・伊藤 登 範士九段②】

須田 三郎

伊藤先生は永く小笠原流弓術を学ばれ、流派についてのご造詣も人並みではなく、さりげない会話を通じていろいろと教えていただきました。先生の射技・体配は常に自然体そのもので、とりわけ改まった様子の微塵もない穏やかな射風は他に類のないものでした。小笠原流の先生方の体配を拝見してすぐに気が付くのは執り弓の姿勢で両手の位置がずいぶん低いことです。弓道教本では両拳が腸骨前上棘にあたるどころと教えていますが、小笠原流では更に下の帯の下辺です。この位置での姿は上体がとても楽に見えて安定感があり、私のお気に入りの姿勢ですが、講習会では必ず「両拳が低い」と注意を受けます。

先生の矢渡は定めの座も今とは異なり、道場入口から4～5歩ほど入ったところで斜めに上座に向かわれる姿で、伝統的というのか、本来の弓道の姿を彷彿とさせるものでした。当時の先生は六段でしたが、他人に見せてやろうとか恰好良く…といった衒いが全くなかったのは、まさに先生のお人柄だったと思います。京都大会の行き帰り、何度か私の車に乗っていただきましたが、お若い頃は軍医として大陸に渡り、輸送隊とともに長距離を移動された体験なども伺った記憶があります。医学博士で全弓連でも要職に在りながら、上から目線でもの言われるようなことのない先生でしたが、傍ら反対意見には理解されるまでなかなか妥協しない意思堅固の面もお持ちでした。

昭和59年、若草国体を前に病臥の身となられ、10月の大会が近づくにつれ、準備室から間近の県立医大の特別室に入院加療中の先生を二日に挙げずお尋ねして、大会の準備状況をご説明しました。

そして成功裏に国体が終了した余韻の冷めない11月8日、病状が急変。病室に駆けつけた私の目に入った光景は、何十人もの医師・看護婦さんと廊下にまで溢れた医療機器に囲まれた先生のお姿で、医の道でも偉大な先生だったのだと再認識させられました。

12月8日、明日香の古刹橘寺でのご葬儀では初冬の日差しに恵まれる中、医学・大学・弓界の関係の多数の方々が続いてお別れをさせていただきました。